

# 旭川医大病院ニュース

## 年頭のご挨拶

病院長 久保良彦

職員の皆様明けましておめでとございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年にもまた国の内外がまことに騒しく推移した一年でありましたが、旭川医大病院は着々と実績を重ねることができました。

これも一重に職員の皆様のご努力の賜物と感謝いたしております。

一年前の旭川医大病院ニュース(第五十五号)で五項目の初夢をご披露致しましたが、その内「救急部・集中治療部の一本化による定員の活用」と「臨床工学部門(仮称)設置による医療機器の有効利用と保全」の二項目が何とかよちよち歩きを始めることが出来ましたことは大変喜ばしく今後の成長を楽しみに致しております。

また、同様に中央診療部門の整備充実の一環として

昨年手術部に続き、開院以来、手が入れられていなかった内視鏡検査部門の整備が本年早々に行われます。

本年一番の楽しみは特殊診療棟の増築工事がいよいよ三月末に完成する運びとなっていることです。

一階部分は既に仮稼働しており、高気圧酸素治療室と準備中の術中照射手術室が配置され、二階には運動療法室、視能訓練室、言語治療室等を具えた総合リハビリテーションフロアが配置されることになっております。

さらに三階部分にはクラス一〇〇という国内においては最高水準を誇る高度先端手術室(バイオクリーン室)が配置され、近い将来実施が予想される臓器移植に対応出来る施設となり、他病院から注目されることとなっております。

病院長としてこの施設がフルに稼働し患者さんの為

に役立つて欲しいと願っているところであります。昨年本院はエイズ診療の拠点病院に選定され、更に新年度早々には拠点病院の核となる「地方ブロック拠点病院」の指定を受ける見通しとなっております。皆様のご協力を得て整備を進めて参っております。進めませんが、今後はエイズ治療・臨床研究或いは研修のセンターとして益々本院の重要性が増して行くことになりそうです。

題字は吉岡元病院長

〔編集〕

旭川医科大学医学部附属

病院広報誌編集委員会

委員長

牧野教授(第二内科)

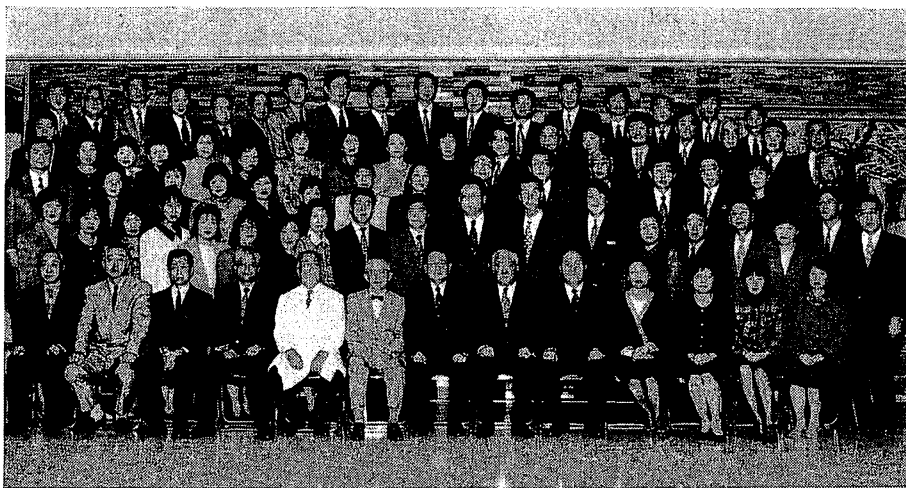


## 永年勤続者表彰

勤労感謝の日を前にして、平成八年度文部省永年勤続者表彰伝達式が十一月二十二日(金)午後二時三十分から学長室で行われ、学長から被表彰者塩谷駿二庶務課長に対し表彰状並びに記念品の伝達が行われました。同日午後四時三十分からは、今年度が、本院開院後二十年ということもあり、被表彰者数がこれまで最高の七十九名にも上る、本学永年勤続者表彰式が、病院会議室で行われました。表彰式は部局長及び所属長の列席のもとに行われ、学長から被表彰者を代表して病理部宇都宮米幸氏に対し表彰状並びに記念品の贈呈が行われました。

尽力されたことに対する、感謝とねぎらいのあいさつがあり、これに対して被表彰者を代表して看護部坂東豊子副看護部長から謝辞が述べられました。表彰式終了後、引き続き病院職員食堂で祝賀会が行われ、永年にわたる思い出

次いで、学長から永年にわたり本学の発展、充実に



話に和やかな懇談のひとときを過ごしました。

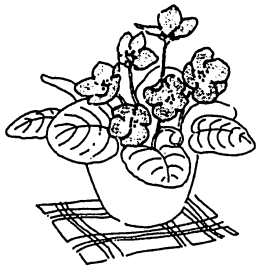
なお、本学永年勤続被表彰者は次のとおりです。(敬称略)

- 赤松 典子(看護部)
- 浅野 隆(施設課)
- 浅野 文子(看護部)
- 阿部 幸子(看護部)
- 石井 禎規(会計課)
- 石川 幸雄(放射線部)
- 井上 晃(医事課)
- 今井 充(整形外科)
- 宇都宮米幸(病理部)
- 鶴野 章(施設課)
- 押切庸之助(施設課)
- 乙崎ミヤ子(看護部)
- 葛西 捷治(医事課)
- 笠原 直邦(薬剤部)
- 加藤志津夫(輸血部)
- 加藤千津子(看護部)
- 加藤 信明(庶務課)
- 加藤 政昭(会計課)
- 鎌田 清恵(医事課)
- 紙谷 輝美(会計課)



- 菅野富士子 (医事課)
- 北脇 清一 (会計課)
- 木龍 隆雄 (庶務課)
- 日下部光俊 (実験実習機器センター)
- 久保 治美 (看護部)
- 久保田勝秀 (検査部)
- 久保田芳江 (看護部)
- 小石 京子 (医事課)
- 小谷 正雄 (会計課)
- 小濱 博 (庶務課)
- 今 久美子 (看護部)
- 阪井 誠 (医事課)
- 坂下 和子 (看護部)
- 佐藤 景子 (看護部)
- 佐藤 秀一 (輸血部)
- 猿倉 生記 (医事課)
- 澤谷 輝子 (看護部)
- 柴 彰則 (検査部)
- 柴田千恵子 (看護部)
- 菅原 時人 (集中治療部)
- 鈴木かほる (医事課)
- 関 千枝子 (医事課)
- 造田カメノ (医事課)
- 高野久美子 (内科学第一)
- 竹井 秀敏 (放射線部)
- 竹田三恵子 (医事課)
- 竹中 進 (検査部)
- 田淵久仁子 (泌尿器科)
- 千葉 薫 (薬剤部)
- 塚本 弘 (庶務課)
- 中尾 昭子 (放射性同位元素研究施設)
- 中川 昭二 (施設課)
- 中川百合子 (看護部)
- 中村 俊春 (材料部)
- 中谷 和宏 (動物実験施設)
- 夏井美知子 (看護部)
- 新井田 鍛 (医事課)

- 西部 茂美 (放射線部)
  - 萩原 信子 (看護部)
  - 長谷川幸江 (検査部)
  - 羽藤 好美 (医事課)
  - 羽根田 俊 (第一内科)
  - 林 慎一 (材料部)
  - 坂東 豊子 (看護部)
  - 福田恵美子 (看護部)
  - 藤巻 智子 (看護部)
  - 藤森 剛 (庶務課)
  - 宮田 武雄 (放射線部)
  - 宮本 政晴 (薬剤部)
  - 三好 敏之 (薬剤部)
  - 村田 正男 (医事課)
  - 村椿 竹夫 (庶務課)
  - 森山 隆則 (検査部)
  - 安加賀進一 (施設課)
  - 矢部 清 (庶務課)
  - 山田 真司 (動物実験施設)
  - 山本久仁子 (薬剤部)
  - 鷲野 豊和 (検査部)
  - 渡辺 博文 (薬剤部)
- (庶務課職員係)



## いまま、気になる病気、話題の病気⑬

### 不正咬合、歯科口腔外科編

欧米では歯並びがよいことが健康的だとする価値観があり、小学生低学年から歯列矯正治療を行うことが多く、よくテレビなどで矯正装置を装着した子供を見かけます。平成七年度から学校歯科検診で不正咬合についての検査項目が新たに加えられたためでしょうか、最近歯列不正(不正咬合)について相談される方が当院でも増加しており、咬合について紹介したいと思います。不正咬合の代表的な症状としては、上顎前突、下顎が上顎より出ている下顎前突、前歯を閉じることができない開口、前歯のみだれなどがあります。不正咬合による障害としては、審美的な障害、咀嚼機能障害、発音障害、咀嚼筋を含めた口腔周囲筋の機能障害、顎骨の成長障害、歯槽膿漏や虫歯の誘因となることがあります。さらに不正咬合による審美的、発音障害は心理的悪影響を与えます。

治療の一環として歯列矯正を行うこともあり、何歳になっても歯は移動させることは可能です。不正咬合の治療法としては、歯の位置と歯列に問題のある症例では、歯列矯正治療を行います。しかし顎の大きさに不調和があったり、顎変形のある場合は顎矯正手術が必要となります。顎矯正手術は、手術法の改良によって顔面皮膚の切開をせずに上・下顎骨を移動することが可能になり歯科口腔外科で盛んに行われています。さらに入院期間を短縮し顎関節障害を少なくするための努力も行ってあります。最近では、顎関節症の治療に顎矯正手術を併用することが試みられております。幸いなことに、平成八年四月から顎矯正手術の手術前後の歯科矯正治療に健康保険が適応されましたので、より多くの患者さんが健康な口腔機能を回復できるので、はなやかと期待しております。

## 見えな放線部

果、デジタル化の利点や欠点により明確となった。平成九年三月の特殊放射線治療トータルシステム(術中照射、全身照射、Radiosurgery、Conformal Therapy等を目的とする)の導入に当たり、第二次画像ファイリングシステムのネットワークの拡張を目指す。

①クライアント&サーバ前記の具体的な内容は「②」に示すように、まずサーバを一台追加し、一台をデータベース(以下DB)専用、もう一台をDICO Mサーバとする。DBには

(助手 竹川 政範)

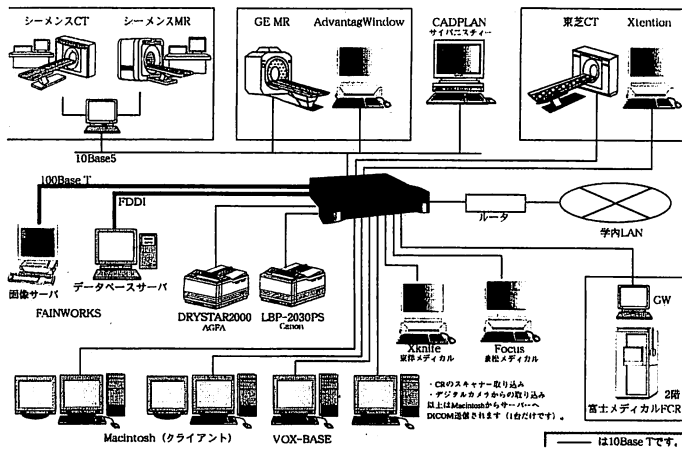


Fig.1 画像ネットワーク拡張図

ORACLEを用い、クライアント/サーバ構造をとる。この構造のクライアント部分は、DBの情報をアクセスするアプリケーションを実行する一方で、キーボードやスクリーンやマウスを使ったユーザーとの対話型動作を行う。ネットワーク上でORACLE RDBMSを使うと、DB内のクライアントは、情報が置かれている物理的な位置を気にすることなしに、ネットワーク上からも情報をアクセスすることができ。一方、DICOMとは

Digital Imaging and Communications in Medicine の略で、米国放射線学会 (ACR) と北米電子機器工業界 (NEMA) が開発した医用画像と通信の標準規格であり、より一般的な LAN (Local Area Network) をサポートし、point-to-point のデータ転送から TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internal Protocol) を利用したネットワークを経由する広範囲の画像転送が可能となった。興味のある方はインターネット上 (<http://w.w.w.xray.hmc.psu.edu>) にアクセスすると、ホームページが表示され、最先端の様々な情報を取得することが可能である。

②各モダリティとの接続  
接続する医療機器は、既設CT二台、既設MR二台、新設治療計画用CT及びWS、液処理の無いDRY LASER二台と接続し、治療計画用コンピュータは既設のCADPLAN、新設にFOXUSとXK NIFEが各一台接続され

③取得画像の検索及び表示  
LAN端末 Mac に Pathway や NFS / SHARE による画像転送機能を持つ画像ファイリングソフトを搭載し、DB にアクセスして必要な画像を検査単位で転送取得することが可能である。Fig.2 は必要な画像を選択し、表示したメニュー例である。Fig.3 に示すように、DB 内に登録された患者個別の番号、イメー

④まとめ  
当施設のシステムは、従来のファイリングシステムで問題とされていた点を解決した。すなわち、転送の高速化、操作の容易さ、十分な保存とバックアップを実現した。また、オンライン接続されたCT・MR画像をはじめとし、コンベンショナル画像やビデオ画像を含めた臨床情報についてのDBの構築ができるようになった。

症例に関するデータの集積、文献検索(学内LANとのルータ接続)から学会発表、論文作成まで可能で、各種のカンファレンスや研

究会における症例検討に必要な画像情報の管理や提示、操作も簡便である。今後の課題としては、一層の改良を加え、院内ファイリングシステムの導入に向けて、より有益なネットワークの構築を目指したいと考えている。 続く

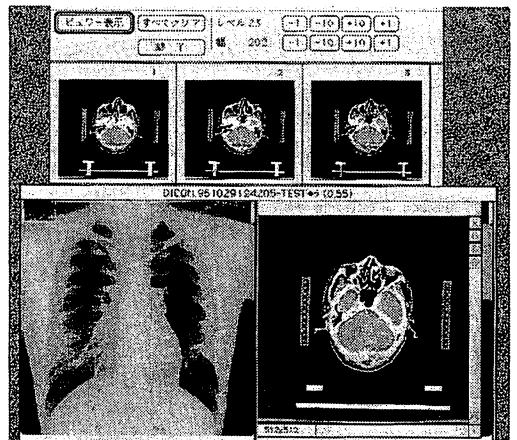


Fig.2 画像選択・表示例

ジモダリティ区分、検査日、患者ID、患者名、性別等の条件をマウスでクリックすることにより、検索することができ。LAN各端末での簡単な画像転送、表示、処理(CT・MR画像のWindow Levelの変更、スミージング、反転、回転)、計測(プロフィールカーブ、ROI、距離、面積、体積等) LFRXを用いたスライド作成等を可能とした。

番号	検査日付	患者ID	患者名	検査部位
0001	1996.02.02	0055252	片山 隆吉	SC
0002	1996.02.02	0182898	片田 マサ子	SC
0003	1996.02.02	0187855	倉根 司	SC
0004	1996.02.02	0191740	加藤 正雄	SC
0005	1996.02.02	0260346	北原 浩美	SC

Fig.3 検索表示例

必要な画像情報の管理や提示、操作も簡便である。今後の課題としては、一層の改良を加え、院内ファイリングシステムの導入に向けて、より有益なネットワークの構築を目指したいと考えている。 続く

## 消防訓練実施される

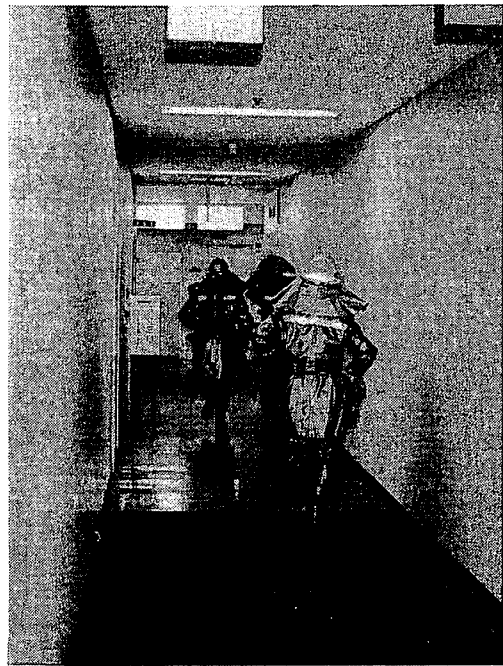
平成八年九月三十日(月)午後二時から、本学附属病院にて消防訓練が実施されました。

訓練は、病院での火災発生時における人的、物的被害を最小限に止めるために、迅速かつ適切な通報連絡・初期消火及び避難誘導等の連携体制の強化を目的として、特に今回は職員が手薄になる勤務時間外(夜間)の火災発生を想定し、夜間勤務者を中心とした職員の協力のもとに実施されました。

今回は、七階東病棟リネン室より火災が発生、火災報知器が鳴動し、防災センターの職員が受信機の表示盤で出火場所を確認、他の当直者、夜間勤務者等と協力して消防機関、関係者へ通報連絡。初期消火及び七階東病棟に入院している患者の避難誘導訓練が行われました。

今回の訓練は、消防庁の検証制度(夜間の火災を想定した訓練が一定の時間内に完了できるかを消防機関が検分し、その結果に基づき必要な指導を行う。)に基づき旭川市南消防署職員

究会における症例検討に必要な画像情報の管理や提示、操作も簡便である。今後の課題としては、一層の改良を加え、院内ファイリングシステムの導入に向けて、より有益なネットワークの構築を目指したいと考えている。 続く



の立会のもとに行われ、一秒でも早い消火、避難行動との関係者の努力により、設定時間内に終えることが出来ました。

しかし、これは予め行動要領により火災を予知していたため、実際の火災に遭遇した時は、今まで繰り返し行ってきた訓練を確実に落ち着いて実行することが肝要であります。

引続き旭川南消防署の指導のもとに、梯子車を利用して七階からの避難及び消火器操作訓練が実施され、最後に旭川南消防署副署長の講評があり、今回の訓練



は通報連絡、初期消火及び避難誘導の行動が迅速で非常に良いとのことでした。

久保病院長からは、今後なお一層防火体制を強化するための職員の協力をお願いする旨の挨拶があり無事消防訓練を終了しました。

(会計課 管財係)

### トムラウシ山の思い出

私と山との出会いは旭川に来てからである。それまでは医局の同僚が夏休みに真黒な疲れきった顔で戻ってくるのを見て山の何が面白いのだろうかと思つたものである。十三年前旭川に赴任し身近に有名な山々があり家族とピクニック気分が初めてである。しかしいづれも暑さ、水不足、石ばかりで面白くないとのこと途中で引き返し山頂に立つた事はない。その後紅葉を見た後銀泉台から駒草平へ行った折、弁当の入ったリュックを背負った長男が一足先に駒草台を通過し赤岳に向つていた。この弁当を追う様に歩いた結果赤岳(二〇七八m)の山頂に立つことが出来た。頂上から見る三六〇度のパノラマ、雄大な景色はここまで来た人にもみ与えられる特権と思われた。しかし残念ながら途中の景色を想い出せない。翌年友人と登る機会があり説明を受けたこともあり第一花園、第二花園に咲く高山植物も見える様になった。初登頂が赤岳のこともあり色のついた山に興味をもち、翌年緑岳(二〇二〇m)を登った。山頂で

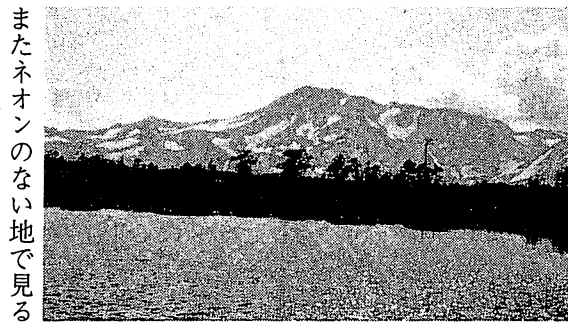
焼肉、ビールを食べ飲みすぎたせいか下山し登る前より体重増加で驚いたことも思い出される。



この頃は年一〜二回の登山で赤、緑の次は黒(黒岳)、白(白雲岳)と考えていた。が三年前の七月、トムラウシ山へ一泊で行く機会を得た。トムラウシ山(二一四一m)は大雪山の奥座敷にそびえ憧れの山である。初心者には無理かとも思われたが同行を決心した。登山口から沼の原迄は雲のため何も見えない。が五色が原から五色岳(一八六八m)では雲も切れ黄色、白の高山植物の群落、何と素晴らしい光景であろうか。化雲岳へ向う途中雪渓からしみ出る冷めたい水、何とおいしい味であろうか。これらを糧に歩くも目的の地はまだ先の様である。「あとの位」

またネオンのない地で見ると、夜空の星の大きく輝くこと、手を伸ばすとつかめそうである。

翌朝二十分位でトムラウシ山頂に立つ。その感激もつかの間、帰路が待っている。往路で体力の大部分を使っている。が山頂の感激と美しいトムラウシ山を振り返りながらこれらを糧に歩く。次第に疲れもピーク



の間に対し「もう少し」の答。これを数回繰り返すうちに目的地であるトムラウシ山頂下のキャンプ地南沼に着いた。眼前に山頂が見える。一日目十一時間の行程であった。目的地が見えず同僚からの「もう少し、もう少し」の言葉が頑張りのある素である様に思える。キャンプでのワインの味も今もって忘れることができない。

に達する。同僚と言葉を交わしたいが疲れのため面倒である。この時道端の名もない花が見えだしこれと話をしながら残りの道を歩き通したのを思い出す。行く途中にも見えていたが目に入らなかつた花だったのであろう。「見える」と「見る」ことの違いを教えられた次第である。無事下山し温泉で手足を伸ばした時今迄の苦労は吹き飛び、喜びと満足感に漬れる。これが魅力で次の山に登りたい欲望の源になるのである。と思う。このトムラウシ山の登山を契機に山のとりこになったようである。昨年は七山を登った。お陰で今は大雪山連峰、十勝連峰の地図が頭にいらいつつある。山の自然は豊かである。今後何かを見たい、見ようの気持ちで山登りを続けて行きたいものである。

(放射線部助教 竹井 秀敏)

